

Heart

医学的に正しい医療
心あたたまる医療
地域社会への貢献

病気の予防からリハビリテーションまでの包括的医療で
地域コミュニティのクオリティ・オブ・ライフを支援します。

科学と医学に立脚した、的確で合意的な医療を実践します。

言葉を尽くし、患者さんの理解・同意・共感に基づいた診療を行います。

人間の心と身体を熟視し、「思いやり」「慈しみ」「やさしさ」をもって、
心温まる医療を追求します。

全職員が常に克己して知識と技術を研鑽する気概と、
専門職としての自覚・矜持をもち、共同して業務にあたります。

地域全体の医療資源及び福祉資源との密接な関係の元に
患者さんを中心とする最善の医療を遂行します。

地域医療のあるべき未来に不可欠なサービス人材の育成・定着に寄与する
医療機関を目指します。

地域社会や人々の実績とニーズに即した、
地域になくてはならない機能の一翼として医療奉仕活動に専心します。

病院の沿革

History

-
- | | |
|----------|---|
| 昭和62年12月 | 杉循環器科内科病院開設(81床)
同時に久留米大学関連病院(関連診療科)に指定される |
| 昭和63年 6月 | 更生医療(心臓)担当医療機関に指定される |
| 昭和63年 6月 | 救急病院に指定される |
| 平成 1年 6月 | 血液透析診療(5床)を開始 |
| 平成 3年 7月 | 更生医療(腎臓)担当医療機関に指定される |
| 平成 4年 4月 | 日本循環器学会指定循環器専門医研修施設に認定される |
| 平成 7年 8月 | 腎センター棟を増築し、血液透析41床に増設 |
| 平成 9年 7月 | 血管造影装置を導入し、緊急冠動脈インターベンションを開始 |
| 平成10年10月 | 更生医療(心臓脈管外科)担当医療機関に指定される |
| 平成10年11月 | 医療法人シーエムエスを設立し、開設者を法人に移行 |
| 平成16年 4月 | 日本医療機能評価機構の認定を受ける |
| 平成18年 1月 | 病院改築に伴いリハビリ室を拡張し、3階病棟に4床部屋を新設 |
| 平成18年 2月 | オーダーリングシステムを導入 |
| 平成19年 2月 | 画像・心電図サーバーシステムを導入 |
-

医療法人シーエムエス

 杉循環器科内科病院

医療体制

Health care system

循環器系(心臓)疾患の救急医療と高度な医療

- 心臓(循環器系)疾患の専門スタッフによる24時間救急医療体制(救急病院指定)
- メスを用いない先端治療法「緊急冠動脈インターベンション」
- 人工ペースメーカー治療

人工透析センターと腎臓内科の充実

- 腎(血液透析)センター 41床

久留米大学病院、大牟田市立総合病院との密接なパイプ

- 心臓・腎臓疾患に高い実績と評価をもつ久留米大学病院との人材・技術の深い交流による最先端の知識と技術の供給
- 大牟田市立総合病院の診療機能を高度に補完

生活習慣病(糖尿病・高脂血症・高血圧・高尿酸血症など)治療の充実

- 糖尿病に対する食事指導、糖尿病教室、糖尿病教育入院など

予防からリハビリまで

- 健康診断や人間ドックでの生活習慣病の予防
- メタボリックシンドロームや動脈硬化の検査を行うメタボリック外来
- 管理栄養士による栄養相談
- 病後の日常復帰を支える心大血管疾患リハビリテーションを含めた医学的リハビリテーション設備の充実

インフォームド・コンセント

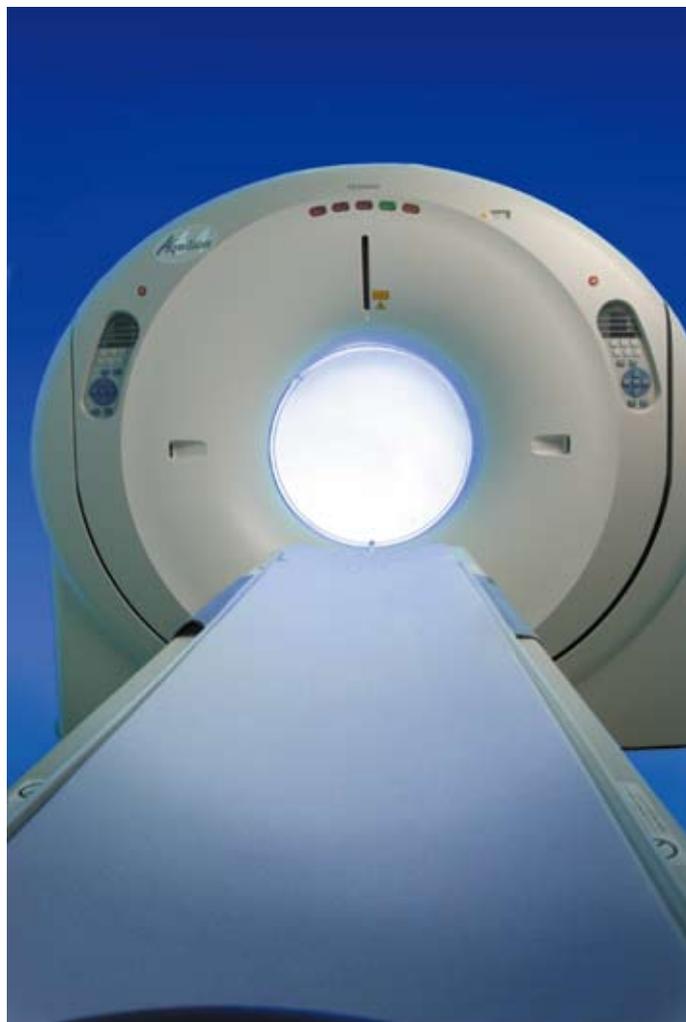
- 病棟・外来それぞれに医療相談室を設置し、患者さんとよく話し合い、同意を得ながら治療を進めるインフォームドコンセントを徹底

医療法人シーエムエス

 杉循環器科内科病院

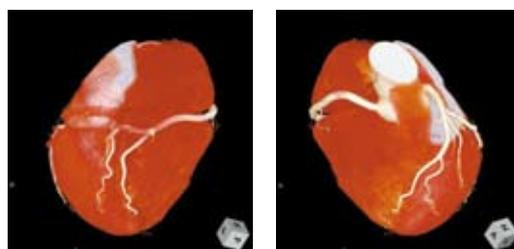
医療設備

Medical facilities and facilities



「心臓疾患」をはじめ
「脳卒中」「がん」
日本3大疾患の発見に
大きく貢献します。

当院では、2008年7月より最新の64列マルチスライスCT(東芝メディカルシステムズ社製、Aquilion64)を導入しました。このマルチスライスCTは従来のCTと異なり高速で一度に最大64枚の断層像撮影が可能な最新鋭CTであり、これによりこれまで心臓自体の動きのために描出が困難であった冠動脈の狭窄や動脈硬化による冠動脈壁の石灰化を正確に描出することが可能となりました。



1997年に当院では心臓・血管造影検査を始めました。この装置は最も小型の撮影装置で日本における本格的な導入の第1号機でした。今回シーメンス社製の最新鋭の血管造影装置に更新いたしました。医学の進歩は日進月歩で、最近の血管造影に使用するカテーテルという管は手首の動脈から安全に入るくらい細なってきました。そのおかげで検査中に痛みを感じるのは局所麻酔の注射のときくらいで、昔に比べるとずいぶん楽になりました。

医療法人シーエムエス

 杉循環器科内科病院

子育て支援

2006年、子育て応援宣言事業所として福岡県に登録認可いただきました。

病院開院以来20年になりますが、全ての職員に働きやすい職場を提供することは、社会に貢献できる企業となる為の不可欠のものと考えております。これからも、子どもを持つ親が、安心して子どもを産み育てて行くことのできる環境づくりを支援していきます。そして、地域医療に貢献していきたいと思っております。

子育て支援会

当院では、子育て中のスタッフが、よりよい仕事ができるよう、時短や勤務体系などの制度面だけではなく、「子育て支援会」を発足し、子育てや介護を含め家庭の悩みや心配事を気軽に相談できる場を設け、様々な形で子育てを応援しています。

病院はまさしく「人」で成り立っています。

スタッフが能力を最大限に発揮できる病院であるためには、働きやすい環境であることが不可欠です。杉循環器科内科病院は、男性も女性も子育てがしやすい環境を整え、スタッフ一人一人が安心して働いていける職場づくりを目指します。



「第3回親子ふれあい日帰り旅行」
阿蘇ファームランド元気の森で楽しい一日を過ごしました。



「第4回親子ふれあい磯遊びと潮干狩り」
鍋海水浴場にて

社会貢献

昭和62年12月に開院した杉循環器科内科病院は、これまでに約33,500人の患者さんをはじめとする多くの皆様と関わりを持つことにより地域に根ざして医療を行ってることができました。

病院の職員も開院当時は約60人でしたが、現在では140人が各職種で力を合わせながら24時間360日にわたり地域医療に携わっています。

病院は、まず第一に本来の医療活動を行うことにより地域に貢献することが大事な使命ですが、それと同時に事業体として地域社会の健全な発展に少しでもできることから寄与することも重要な役目ではないのでしょうか。そして、そのことにより地域の方々の理解と支援を得ることがなければ、病院の存続はもとより発展も難しいと考えます。

この度、前述の理念のもとに杉循環器科内科病院内に社会貢献推進部門を作り、地域との相互理解を深めるとともに地域社会に貢献する活動を支援し、創業の思い、病院の理念を職員と共有して行きたいと考えています。

これまでも、十数年にわたり知的障害児通園施設りんどう学園、知的障害児施設あけぼの学園にクリスマス慰問を続けています。昨年は開設20周年記念事業として、特別擁護老人ホームに車椅子、大牟田市生涯学習支援センターに遊具一式を寄付いたしました。



大牟田市生涯学習センター

寄贈したボールプール(左)。この遊具で、こどもたちは、ボールプールの中に入って、横になって転んでみたり、ボールを投げたり、全身を使って遊んであるとのことでした。



大牟田市生涯学習センター

センターの仕組み、訪れるこどもたちの日頃の活動内容を説明していただきました。また、こどもたちが、先生と一緒に制作している作品(下)をみせていただきました。

病院食

当院のめざす病院食は「安全・安心な食材でかつ美味しい食事の提供」です。

現在、上内地域が開発している低タンパク米を使う計画や地域の新鮮な野菜を使う、地産地消による病院食も導入計画中です。地元産の食材使用でコストが10%ダウンの病院もあります。

地元の農協も「食育」を理解して、堆肥使用の無農薬野菜の栽培に取り組んでいる方もおられます。

予防医学にも食事は大きい存在です。

今、一般の人でもスローフードな食への意識が高くなってきております。田や畑をみて、生産者と話をし、納得いく食材選びを考える時で、病院が率先して使用し、安全・安心な食材を使った病院食を提供することが大切かと考えます。そして、当院の患者さんにその食材を紹介することもできます。

当院は開院以来20年、低コストを追求せず、「心を満たす食、心をつなぐ食」でありたいという思いを病院食に導入してきました。

制限がある方が多い為に、制限緩和した行事食には力を入れていて好評です。食材の生産過程に着目し、より良い食材購入を検討したいと想います。そのネットワークができコミュニケーションができれば契約農場の形も可能ではないかと考えています。



春陽米の田植えの様子です

タンパク質を吸収しにくいお米として、病院食へ取り入れられるよう協力をすすめています。



城北農協組合の皆さん

地元の農家の皆さんから、無農薬・減農薬栽培による安全で朝採れた新鮮な野菜を配達して頂き、地産地消に取り組んでいます。

医療法人シーエムエス

 杉循環器科内科病院

